

## <大分県フリースクール等連合会 設立趣意書>

近年、大分県下の不登校児童（生徒）数は日本全体と同様増加傾向である。こうした中、文部科学省は2019年10月、不登校児童（生徒）に対する対応の方向性として「学校復帰を目指す」から「社会的自立を支援する」と表現を改めた。それと同時に戦後の復興から発展して確立したあらゆる社会システムは、大きく揺らぎ変容することを余儀なくされており、さらに2020年から世界中に激震をもたらしている感染症の影響が、変容の加速に拍車をかけている状況にある。そして、大分県下ではフリースクール等の居場所が増え、2020年6月には大分県教育委員会主催の第1回フリースクール協議会が開催された。

日本の教育界は、多様な学び場が存在する世界の教育や、近年の社会的背景に後押しされるように変容が加速しているが、子どもたちの居場所となっているあらゆる現場には、戸惑いやジレンマやストレスを抱えつつも、懸命に子どもたちと関わる現状があることを認識した。

これらの流れを受けて我々は、2020年8月から毎月2回、フリースクール等の代表を中心とした教育に関わる方々と対話を重ねてきたのだが、この対話から明確となった共通の想いは、以下の通りである。

- ・フリースクール等の存在は、子どもたちの「社会的自立を支援する」為、不登校となった子どもたちの多様な個性が社会的に受け止められる場として、子どもたちやその保護者の方々の居場所となり学び場となり支えとなりうること。
- ・フリースクール等の運営には、たくさんの理解と協力が必要であること。
- ・「社会的自立を支援する」為、あらゆる教育に関係する大人は、公の機関と連携を図りながら、子どもたちとその保護者を支え続ける必要があること。
- ・フリースクール等もまた、多様な存在であること。
- ・経済的格差による教育機会の不平等をなくすこと。
- ・子どもたちの学びの選択肢が増えることに貢献すること。

以上、これらの共通の想いから「大分県フリースクール等連合会」を立ち上げる運びとなった。

大分県フリースクール等連合会の目的は「現代教育の枠にとらわれない学びの場や居場所であるフリースクール等の情報共有や連携」と定款に定めている。ここに「フリースクール等」としたのは、子どもの社会的自立に関わるすべての大人を指しており、互いが共通の想いの実現を導き合う関係性を創り活動することを意味している。

最後に、我々はその時代時代の社会における日本の教育に誇りを持ち、これからも時代に必要進歩を遂げながら変容する必要がある事を痛感している。よって、当連合会は会員のみならず、一人でも多くの子どもたちの社会的自立を支援する為、共に活動して行きたい。